

令和4年12月5日（月）
15:00～16:00

第2回学校運営協議会議事録

1. 出席者

大阪学院大学	寺脇 久人
高石市立高石中学校	細越 浩嗣
学校歯科医	戸堂 耕造
同窓会会長	山口 裕通
PTA会長	伊豆田 美紀
高石市第1区自治会長	中谷 正彦
高石高校校長	綾井 俊行
高石高校教頭	長子 等
書記	中軽米 健太

2. 審議事項 スクールミッションについて

- 校長 : 12月中に教育委員会に提出する事案。各学校の目標・目的を明確化する必要性があった（高石高校には校訓がない）。
- 委員1 : 自分が当時在籍していたときのことを思い出した。懐かしい響きを持つ言葉でよろしい。
- 委員2 : 伝統的な内容でよろしい。
- 委員3 : 和歌を基調とするのは土地との歴史の必然性が出てきて素晴らしい。
- 委員4 : 学校において普遍性を持たせる内容が良いと思います。リーダーをつくるという表現においては、公の部分が強く、私の部分（健康・自主など）がしぼられている可能性がある。それぞれの個性の発達をもう少し強調すべき。
- 委員長 : リーダーを育てるという表現は今まであったのか。
- 校長 : 学校運営計画の中で地域のリーダーを育てるという表現をしている。
- 委員4 : リーダーになれるような素質を持つような人材の育成というのは必要なのか？
- 校長 : 「リーダー」という表現は、「スクールミッション」ではなく、「スクールポリシー」に入れるべき表現であると理解したので表現の修正を検討する。
- 委員5 : 教育委員会のプレッシャーもあると想定される内容かもしれない。学校の存在意義を考えていくことは非常に大事だと考える。

3. 報告事項 高石高校の取り組みについて

校長 : コロナ禍の状況課ではあるが、今年度は学校の取組として「防災・減災」活動について、予定通り取り組むことが出来た。はじめに「『世界津波の日』2022 高校生サミット in 新潟」が3年振りに開催され、本校生徒が参加した。また「第7回防災推進国民大会2022 in 神戸」に参加し、「災害時の炊き出しの心得」を学習した。そして、大阪府教育庁から「災害ボランティア活動推進事業」指定校に昨年度に引き続き選ばれたことにより、「福島県・宮城県地域復興ボランティア活動」を実施し、福島県富岡町のとみおかワインドメヌでの復興ボランティア活動と宮城県多賀城高等学校での交流活動を行った。熊本県教育委員会から本校の防災・減災活動の取り組みについて視察があり、これを機に、接点ができことから当地の災害の復興状況を知る活動などに今後取り組もうと考えている。最後に「北方領土隣接地訪問学習」として北方領土問題について根室市の各施設等と連携し、生徒を引率して視察を行った。

教頭 : 教務部より「追認指導」を行いました。2年生、3年生を追認と認めたものが複数名出たことにより生徒在籍数が計905名となった。成績については、観点別学習状況評価を今年度から執り行っている。その中で評定平均値が集中する課題が報告されているが、現在本校ではそのような課題がみられていない。進路からは1・2年生を対象に進路希望調査を行い、結果は資料の通りである。3年生は指定校推薦の結果が載っており、ほとんどが通っている。また就職も内定の報告がある。新型コロナウイルスによる学校の臨時休業は4月に学級閉鎖が2クラスあった。また授業評価アンケートの結果は資料の通りである。

4. 協議

委員長 : かなりの数の報告事例、精力的な活動を行っていて、校長が多忙なのは？

校長 : 大体において付き添いや指導に関わっている。

委員2 : 過去に新型コロナウイルスの罹患した人物が複数回かかっているのか、データが欲しい。

教頭 : 手元にデータがないので確認できないが、複数回かかっている者は何人かいると思う。

委員1 : 重症化している方は？

教頭 : 重症化したものはいない。コロナ後遺症で学校を休んでいる生徒は何人か確認されている。

委員2 : 文部科学省における新型コロナウイルスの対策の変更について、どう対応しているか？

校長 : 大阪府教育委員会の示すガイドラインは継続して徹底させているが、これまでの制限等は緩和の傾向にあり、食事時の黙食や室外でのマスク着用などについては、現在はこれまでのように生徒に対して強くは指示してはいない。各生徒本人のエチケットに任せている。

委員長 : 重症化等含め、今後重視し対策をしていくようお願いする。